

上野総合市民病院だより

◆市民病院の出前講座について

病院スタッフが行う出前講座をご存じですか。当院では地域の皆さんの健康づくりをサポートする出前講座を実施しています。

「健康維持の方法について知りたい」「身近な病気について、専門家から直接話を聞きたい」といった声にお応えします。

自治会、市民団体、施設など10人以上の団体を対象に実施しています。場所は希望の会場で実施します。ただし、会場の確保、準備は申込団体でお願いします。時間は60分程度で、費用は無料です。

これまで実施した講座の内容は、「高齢者の健康管理」「健康寿命を延ばす食生活」「感染対策について」「認知症介護・予防」「寝たきり予防のための運動」などがあり、幅広いテーマで皆さんの健康づくりをサポートします。

講師は、医師・看護師・管理栄養士など、各専門



の医療スタッフが分かりやすく丁寧にお話します。ご希望に応じてさまざまなテーマに対応が可能です。質疑応答の時間もありますので、日頃の疑問や不安を解消する機会としてご利用ください。

出前講座のお申し込みや、お問い合わせ、ご相談は、地域医療連携室までご連絡ください。

(地域医療連携室 医療ソーシャルワーカー 菊川 ひかり)



伊賀市の文化財 160

和歌に詠まれた二つの森 (垂園森と哀園森)

打ちならび 月見るやうな 森二つ 土芳
松尾芭蕉の門弟である服部土芳が詠んだ俳句です。二つの森とは市の史跡に指定されている「垂園森」と「哀園森」を指します。

垂園森は千年以上昔から和歌の名所とされ、清少納言の『枕草子』「森は」の段には「うへきの森・岩田の森…たれその森・くるべきの森…」と、日本の代表的な森のひとつに挙げられています。さらに平安中期の歌人、能因法師が記した歌学書『能因歌枕』にも、伊賀国の項に「誰その杜」と記され、平安後期の歌人、藤原清輔の記した歌学書『和歌初学抄』杜の項にも「伊賀 たれそのもり」とあり、平安貴族の間で垂園森は、よく知られた森でした。

垂園森の北方約400メートルにある哀園森も和歌の名所であり、かつては二つの森が一体であったことがうかがえます。江戸時代の芭蕉の足跡を慕い伊賀を訪れた肥前国出身の俳人、長月庵若翁により記された由来書には、「澄みたる夕景色いかにもあわれにさびしきところなり」と当時の様子が記録されています。

われならで たれ其森の玉櫻
たまさかにもや 色にそむべき
紀貫之
うつせみの かりの此の世に住みながら
なくねそうすき あわれその森
西行法師

和歌に詠まれた二つの森周辺では、いにしえより人びとが連続と暮らし続けてきたことが、発掘調査で分かっています。

冒頭の土芳の俳句は、木津川沿いから東の空を見上げたものと思われます。田んぼに水が張られる時期の夕暮れ時は特に、情緒あふれる雰囲気を感じ出します。清少納言もこの風景を眺めていたのかもしれませんが。

文化財課 ☎ 22-9678 FAX 22-9667



▲哀園森 (左前) と垂園森 (右奥) 西から

明日に向かって～差別をなくしていくために～

「気づき」から「行動」へ -防災危機対策局-

防災危機対策局では、防災力の向上をめざして、市政出前講座を行っています。この講座では、参加者のニーズに応じ、興味を持っていただけるよう工夫しています。講座を通して、少しでも防災力の向上につながる「気づき」を得ていただきたいと思いますが、「気づき」は一人ひとり異なります。例えば、非常用持ち出し袋を準備している人とそうでない人、また家族と同居している人と離れて住んでいる人では異なる「気づき」があるでしょう。そのため、すべての参加者が何かの「気づき」を得られる話をしたいと考えています。

担当者としては、防災に関心を持ち、興味を持ってもらうためにさまざまな工夫をしていますが、本当に伝えたいことは「気づき」から「行動」に移すことが重要だということです。

防災に対する意識や知識があっても、実際に災害に備えて「行動」に移さなければ、「気づき」のままでは防災力は向上しません。また、「行動」の中にも、非常用持ち出し袋の準備や家具の配置変更、避難ルート、非常時の連絡方法の確認など、個人でできることもあれば、地区での安否確認や声を掛け合って避難する訓練など、地域全体で取り組むこともあり、「行動」も参加者一人ひとり異なるはずで

す。人権問題も同じことが言えるのではないのでしょうか。「気づき」を「行動」に変えるには、一人ひとりの能動的な姿勢がポイントだと思います。相手の立場で考え、差別や偏見の解消に向けた具体的な「行動」につなげることが重要です。

私たちも参加者が能動的に学びたいような講座をめざして、日々努力を続けたいと思います。

■ご意見などは人権政策課 ☎ 22-9683 FAX 22-9641 ✉ jinken-danjo@city.iga.lg.jp へ



「イガプロ」とは、「イガ」と「プロダクト (製品)」、「プロフェッショナル (専門家)」などさまざまな「プロ」を掛け合わせた造語です。

株式会社 安永

株式会社安永は、1923年に上野市 (現・伊賀市) で創業した、ものづくり企業です。自動車などのエンジン部品や、自動車・電子・半導体分野の機械装置を製造しています。また、エアーポンプやディスクなどの、安全で快適な暮らしを支える環境機器も開発・製造・販売し、伊賀から世界各国へ高品質な製品を届けています。近年では、1mm²の中に400個以上のミクロンサイズの孔加工ができる微細金型形成技術を開発しました。この技術を用いて、リチウムイオン電池の電極表面に微細な孔を高速かつ均一に加工する「電極活性化装置」を開発し、大手電池メーカー向けに販売を開始しています。これにより、電池の急速充電や寿命延長に効果があります。

当社は、東証スタンダード市場に上場し、「グローバルニッチ No.1」を掲げ、「ものづくりで世の中を驚かせる」企業をめざしています。

◆若手社員の声

私は今年3月に県外の大学を卒業し、Uターン就職で安永へ入社しました。県外就職も考えていましたが、地元を離れた4年間を経て改めて住み慣れた伊賀の魅力に気づき、地元就職を選びました。高い技術力と温かな社風のある安永で、自身の成長と地域への貢献を通じて、伊賀に活力をもたらす力になりたいと考えています。(人事総務部・前川智哉)



▲電極活性化装置

◆会社概要

- 【設立】 1949年9月
- 【所在地】 伊賀市緑ヶ丘中町 3860
- 【従業員数】 583名
- 【事業概要】 エンジン部品、機械装置、環境機器の製造販売
- 【グループ会社】 9社 (国内4社、海外5社)
- 【従業員数 (グループ全体)】 1,703名
- 【連絡先】 24-2111



<https://www.fine-yasunaga.co.jp/>